



やんばるの中の高江

沖縄本島北部の豊かな森に囲まれた地域をやんばる（山原）といいます。やんばるには地球上でここだけにしかないヤンバルクイナ、ノグチゲラなどの固有種や絶滅危惧種が数多く生息しています。日本全体の0.1%にも満たないやんばるに1000種以上の高等植物や5000種以上の動物が暮らしています。国際自然保護連合（IUCN）が保護を求めるほど、世界的に貴重な生物多様性の宝庫です。2016年9月には国立公園として指定されました。現在、奄美・琉球をユネスコの世界自然遺産に登録する動きがすすんでおり、やんばるの森も範囲の一つとなっています。しかし、広大な北部訓練場はその指定範囲に入っていません。軍事基地と隣接した形で、世界自然遺産登録がありえるのか大変疑問です。

東村高江と米軍基地

高江は人口約140名の集落です。美しい山と川に囲まれ子供たちものびのび育っています。しかしこの緑豊かな高江と米軍北部訓練場（ジャングル戦闘訓練センター）は隣り合わせにあります。北部訓練場はジャングルでの戦闘訓練を目的に1957年に使用が始まり、その3年後に開始されたベトナム戦争でのゲリラ訓練が行われました。2006年、新たに6箇所のヘリパッド建設が高江を取り囲むように計画されていることが新聞報道から判明しました。これを受けて高江区は2度目のヘリパッド建設反対の決議をしています。

私達は日本政府、沖縄防衛局に対して建設計画の説明と話し合いを求めました。しかし、2007年、防衛局は十分な説明もないまま、強行に建設工事を始めたのです。私達は工事開始から「座り込み」という方法で抗議、監視、阻止行動を続けています。

ヘリパッド建設と高江住民の年表

1957年		北部訓練場の使用開始
1996年	12月 2日	日米特別行動委員会（SACO）最終報告
1999年	10月26日	高江区区民総会「ヘリパッド移設受け入れ反対」決議
2006年	2月23日	高江区区民総会で2度目の「ヘリパッド建設反対」決議
2007年	5月17日 7月 2日	東村村長ヘリパッド建設反対の公約を撤回 ヘリパッド建設着工 住民の座り込みが始まる
2008年	11月25日	沖縄防衛局が住民15名（7歳の子供も含んでいたが取り下り）を「通行妨害処分」で那覇地方裁判所名護支部に申し立て
2009年	12月	通行妨害処分で2名の通行妨害禁止の決定国は2名を提訴
2012年	3月	本訴訟で1名を「通行妨害」と認定
2013年	2月 6月	N4地区のヘリパッド2カ所の内1ヶ所が完成 通行妨害禁止 高裁判決1名の「妨害」の判断維持
2014年	6月13日	通行妨害禁止の訴訟で最高裁は上告不受理決定
	7月	N4地区の残るヘリパッド1ヶ所が完成
2015年	2月17日	N4地区の2ヶ所のヘリパッドを先行提供
2016年	7月11日 22日 9月21日 12月13日 15日 22日	N1、H、G、の4ヶ所の工事再開に向けメインゲート資材搬入 N1ゲート入り口、抗議の座り込みを排除しテント、車両撤去、工事着工 高江住民が米軍ヘリパッド建設工事差し止めを国を提訴 オスプレイ名護市安部の海岸に墜落 米軍ヘリパッド建設工事差し止め仮処分命令の申し立て却下 日米両政府はヘリパッドがすべて完成したとして約4000ヘクタールの返還を祝う式典を名護で開催 約4000ヘクタールの返還を祝う式典を名護で開催
2017年	7月 10月11日 12日	ヘリパッド建設補修工事が再開 高江民間地（牧草地）に米軍ヘリCH53E墜落炎上 高江区が「北部訓練場の新しい6カ所のヘリパッド使用禁止」決議
2018年	1月26日	沖縄とグアムでの米軍基地拡大に反対する共同声明と質問書をグアム住民と住人の会で外務、防衛省に提出。

SACO 合意について ～隠されていた目的～

1996 年「県民の負担軽減・基地の整理縮小」をかねて「沖縄に関する特別行動委員会 (SACO)」が設置され、日米両政府が合意し「SACO 合意」が発表されました。この SACO 合意で北部訓練場 (約 7800 ヘクタール) の過半 (約 4000 ヘクタール) は返還されることになりました。しかし、交換条件としてヘリパッド建設や上陸訓練のための提供水域が決められていました。いつの間にか SACO の目的が負担軽減から基地の機能強化にすり替わっていたのです。

建設されたヘリパッドは直径 75 メートルで新機種「オスプレイ」の使用規格と同一であり、オスプレイの運用の為にオスプレイパッドといえます。この新基地がやんばるの自然環境と高江住民の生活に深刻な影響を及ぼしていくことは必至です。

(日本政府はオスプレイの配備を隠してきましたが、2012 年沖縄に配備されました。)

SLAPP 訴訟

2008 年 11 月、国 (沖縄防衛局) は座り込みが工事を妨害しているとして、那覇地方裁判所名護支部に通行妨害禁止の仮処分の申し立てをしました。訴えられたのはほぼ高江住民で、(父親が参加していることでその妻も子供も訴えられました。) 人違いやその妨害の日時、場所の証拠もないずさんなもので、フログや新聞記事を証拠として裁判に引きずり出し表現活動の監視として運動の弾圧、威嚇目的で委縮させる狙いです。住民運動に対する恫喝、弾圧目的の裁判を SLAPP、(Strategic Lawsuit Against Public Participation) 訴訟と呼びます。高江住民が米軍基地問題で初めての SLAPP 訴訟となりました。

通行妨害裁判結果

裁判所は、2009 年 12 月、仮処分では、共同代表の 2 名を 通行妨害禁止の決定を出し、2 名の本訴訟を提起したが一審で一人を通行妨害禁止と命じ、2013 年 6 月高裁判決もこの判断を維持、2014 年 6 月最高裁でも上告不受理決定となり、結果 2008 年に始まった、15 名の通行妨害申し立て裁判は、一人に「ゲートの前で立ってはいけない」と命令されました。5 年半も弁護士や支援者の皆さんと一緒に裁判で、非暴力の抵抗や表現の自由を訴えましたが尊重されず 「ゲート前に立った」ことだけを判断した結果で、住民がどうしてもそこに立たなければいけなかったのか、全く聞いてもらえなかった。このようなスラップ訴訟を 2 度と起こさせないためにと東京で署名活動が起こり。全国に知らせる大きな力にもなりました。

N4 ヘリパッド完成

2015 年 2 月、2013 年と 2014 年に完成した N4 地区の 2 か所を閣議決定で米軍に先行提供されました。オスプレイがすぐに使用し高江の騒音はひどいものになりました。2016 年 6 月 N4 のヘリパッドに 2 週間連日でオスプレイが 3 機編隊で離着陸、集落上空での低空飛行訓練で、低周波、爆音、振動で仕方なく高江を離れ子どもを安全な場所へ避難しなければならぬ事態となりました。

N1、H、G の強硬な工事と工事差し止め裁判、返還式

2016 年 7 月、2 年間中断していた工事を再開。9 年間、工事出入口のゲートを守っていたテントと車両は、全国から派遣された機動隊 800 名 (県外から 500 名) で、力攻めで座り込みを排除しすぐにテントと車を撤去しました。ケガ人も続出し、このすさまじい現場の有様に、ここは一体どここの国の何の何の前の状況がとても信じられない、これまでの価値観をすべてゼロにされてしまった光景でした。しかしこれは終わりではなく今から始まる工事の手始めにしかありませんでした。この日からダンプの砂利を搬入するために、検問、通行止め、逮捕者、ケガ人、自衛隊のヘリも使用し、あらゆる手段で工事を進め、1日120台搬入する日もあり高江や北部の住民の生活が奪われてしまいました。9 月、「オスプレイパッドが出来ると生活が出来なくなってしまう。」と高江住民 31 名は「米軍ヘリパッド建設工事差し止め」で国を提訴しましたが、12 月に申し立ては却下されました。この 2 日前オスプレイが安部の海岸に墜落しその危険性が明らかになったにもかかわらず予定通り 1 週間後、北部訓練場の過半の返還式典が県民の抗議の中で執り行われました。翁長知事は返還式には参加せず抗議集会に参加しました。

日本政府と米軍基地

ヘリパッド建設の工事費は、予算が 6 億 1 千万だったのに対し使われたのは 94 億 4 千万、なんと 15 倍もの税金が使われそのうち 63 億が警備に使われました。このことは、ヘリパッド建設が地域住民や国民に全く理解されていないと解った上で、警備費を使い強行に工事をした証しです。工事が終わった今も、3 か所のゲートの前に 24 時間米軍基地を日本政府 (民間警備員) が守っている異常な光景が高江に残されたままです。

沖縄の水が危ない！！水源地に軍事訓練場がある？！

北部訓練場付近には 5 つのダムが点在し、沖縄本島 生活用水の 60% を担う貴重な水源地です。

2007 年にはダムに投棄された弾薬類が 1 万発以上発見されました。更に、ベトナム戦争時北部訓練場において米軍が枯葉剤を散布していたことも明らかになりました。2013 年宜野座村にあるキャンファハンセン中部訓練場にヘリが墜落、大川ダムは有害物質汚染の可能性により、1 年間取水停止になりました。

そして、2017 年高江の民間地にヘリが墜落・炎上しました。この機体の一部には放射性物質や有害な科学物質が使われており、それらの影響に対する懸念がありました。しかし、米軍によって現場土壌を持ち去られるなどの規制があった為、放射能等の懸念は明らかにされていません。事故現場はダム流域界のすぐそばで、その外側でした。もし内側であれば 6 割の水が取水停止という大惨事になるところでした。

沖縄県民の「命の水がめ」で軍事訓練が行われるという異常な状態が恒常化してしまっており、周知をはじめ、緊急の取り組みが必要と考えます。

高江の今

高江区は2度にわたりヘリパッド建設反対の決議をしてきましたが、国は工事を強行し、2016年に6箇所のヘリパッドが完成し、米軍に提供されました。その中でもN4のヘリパッドは県道から約150メートル、一番近い民家まで約400メートルしか離れていません。現在はひどい時で3機のオスプレイが夜11時近くまで、超低空で住宅の上空を飛び回ります。そしてその訓練が約3週間毎日続くこともあり、住民はゆっくり寝ることもできず、騒音と低周波と墜落の不安の中で暮らさなければいけません。子供たちを守るために引越せをする世帯もあります。しかしそんな世帯に対しての保障などは一切ありません。国はそこで住み続けなければいけない住民の暮らしがどうなっていくのかなどの調査や聞き取りなども一切することはありません。結局住民がすべての犠牲を背負うことになるのです。そして今、日本全体で同じような軍事の拡大が「抑止力」と「負担軽減」という名目で進んでいます。もう高江だけの問題ではありません。

これからのこと

これまで全国の沢山の方々の思いや行動がありましたが、残念ながらヘリパッドは完成してしまいました。国は話し合いをせず工事を強行し、市民を弾圧し、やんばるの自然を破壊したという事実が歴史となって残りました。私たちはこれ以上同じ思いをする人たちを増やさないために、そして、私達自身の普通の暮らしを取り戻すために、活動を続けていきます。命と暮らし、やんばるの自然を守る為に「北部訓練場を撤去しもとの森に戻すこと」。そして「戦争のない平和な日々を次の世代に残すこと」を掲げ、伝え合い、つながっていくこと。そして、あきらめないこと。を力にして訴えを続けていきます。その活動の最初の一步として沖縄の基地負担軽減を理由に実弾射撃訓練場が造られようとしているグアムと軍事拡大に反対する共同声明を出しました。沖縄の離島、日本、そして世界の島々でも軍事拡大が進んでいます。私達の力はとても小さく、権力という大きな力に勝つことはできません。しかし同じように苦しい思いをしている人たちが手をつなぎ、つながっていくことでそれはとても大きな力になっていきます。その力は暴力や権力とは違います。愛や希望の力です。「こういう未来でありたい」という具体的なイメージを持って、目指していきます。その土地の自然や文化や伝統や歴史や聖地や人権を守り、そこで暮らす人々が心豊かに笑顔で普通に暮らせるように。「いつでも愛とユーモアを」の精神のもとに世界とつながり、手を繋いで一緒に声をあげていきます。私たちは世界中からの連帯を求め、応援・参加を呼び掛けています。

連絡先

「ヘリパッドいらない」住民の会

住所 〒905-1201 沖縄県国頭郡東村字高江 85-95

Fax 0980-51-2688 携帯電話 090-9789-6396 (9:00~17:00)

Eメール info@nohelipadtakae.org

ブログ 「やんばる東村高江の現状」 <http://takae.ti-da.net/>

カンパ振込口座 郵便局 01780-1-65612

振込名義 フロッコリーの森を守る会

※私たちの活動はカンパでまかなわれています。どうぞ宜しくお願いします。

※振込名義は会の旧称です。

沖縄とグアムでの米軍基地拡大に反対する共同声明

2017年10月24日

「ヘリパッドいらない」住民の会・基地・軍隊を許さない行動する女たちの会・ていだぬふぁ 島の子の平和な未来を作る会・与那国の明るい未来を願うイソバの会・沖縄県環境ネットワーク

グアハン平和正義連合・グアハンに独立を・グアム大学女性・ジェンダー研究プログラム・フェッツァン・ファマラオアン（女性の力）

賛同団体

基地の県内移設に反対する県民会議・ヘリ基地いらない二見以北10区の会・聖マリアの汚れなき御心のフランススコ姉妹会・日本山妙法寺・平和を作り出す宗教者ネット・基地のない沖縄をめざす宗教者の集い・リテクサンを守れ（PLSR）・平和を求める元軍人の会（Veterans For Peace）

沖縄に他国の軍隊の基地を作ること、また沖縄の負担軽減と言って日本の税金でグアムに海兵隊を移転することは日本国憲法違反です。こうした基地や実弾射撃場の建設は次の戦争のための準備であることから、私たち沖縄とグアムの住民が取り返しのつかない被害に合うことは明らかです。私たちはグアムと沖縄で続く軍事拡大を止めるよう日米両政府に対して連帯して要求します。

沖縄に他国の軍隊の基地を作ること、また沖縄の負担軽減と言って日本の税金でグアムに海兵隊を移転することは日本国憲法違反です。こうした基地や実弾射撃場の建設は次の戦争のための準備であることから、私たち沖縄とグアムの住民が取り返しのつかない被害に合うことは明らかです。私たちはグアムと沖縄で続く軍事拡大を止めるよう日米両政府に対して連帯して要求します。

私たちの島には数多くの貴重な動植物が生息し、豊かな歴史が根付いています。しかしこの自然と歴史の遺産が、米軍基地により破壊され続けています。私たちは大国の争いのために利用されているのです。

沖縄の高江では、まさに一番恐れていたことが現実となりました。2017年10月11日夕方、高江の集落に米軍のヘリが墜落したのです。一番心配していたことが現実となったのです。このようなことを断じて許すことはできません。米軍機の墜落などの事故や米兵による犯罪事件によって、沖縄とグアムの人々の命は危険にさらされ続けています。私達は普通に安心して暮らすことができません。

私達の多くは、祖先の土地から立ち退きを強要されたり、基地があることにより起こる様々な恐怖から、住む場所を追われ移住を余儀なくされています。米兵によるレイプや殺人などの犯罪にもさらされている私達は、軍隊は子どもも女性も住民も自身の兵士さえも守らないことを知っています。

それは同時に人権が全く守られず、無視され、「人」として扱われていないということです。私たちの「人」として生きる権利を奪うことは誰にもできません。

私たちの人権を守るために、そして豊かな自然を未来へ残すために、私達は連帯して、共に軍事拡大を止めるために声を上げていきます。

さいごにアメリカ先住民のことは

インディアンやネイティブアメリカンと呼ばれるアメリカ先住民は、“何か決めるとき7世代先のことを考えて決める”といひます。自分たちが生きている今だけでなく、ずっと先の未来の子供たちのことを考えて行動するのです。私たちの行動や選択のひとつひとつが未来の暮らしを私たち作っています。子どもたちは私たちから何を受け継ぐのでしょうか・・・。
自然の恵みいっぱいの平和な日々であってほしいと願わずにはいられません。